

## 「感動はバトン…？」 ～6年担任の振り返り～

○6月17日

下の写真は先週末に発行された6年生学級通信の裏面です。



表面には

「おつかれさま。」と題し、

<ありがとう>という感謝

<6年生1/4終了、今後も頑張ろう>

という内容が載っていました。

金曜の朝、担任は通信を配布し、照れくさそうに短い言葉で、自分の気持ちを伝えていました。

この通信で一番目に留まったのは、表面の「一生懸命やれば、たとえカッコ悪かったとしても、人の心を動かせるってことが証明されましたね」

という一文。

さて、なぜ人間は、人に心動かされ、感動するのでしょうか…。(カッコは関係ないようです。)

それには感動のメカニズムを考えてみなければなりません。

自らの出来事で心が動く。これは納得できます。でも他人の出来事でも心が動いてしまう？

これは…、 おそらく共感なのではないでしょうか。

6年生の通信で言えば、「一生懸命さが人の心を動かす」。

これは見ている人が「一生懸命だった自分の姿」を思い出し、「その時の心情」を目の前の場面に重ねる所から来ていると考えられます。

となると、「一生懸命」を経験している人だけが感動するということになります。

きっとそうなのでしょう。「一生懸命さ」に感動できる人は「一生懸命」の気持ちがわかる人であり、「一生懸命」の価値を知っているということなのでしょう。

人にとって大切な「一生懸命」。その本当の価値を共有するためには、まず自分が「一生懸命」でなければならないということ。そして、「一生懸命」の経験と「一生懸命」への感動は、「一生懸命」の大切さをリレーしていくということになります。

～ 互いの経験を感じ動というバトンでつなぐ ～

学校では「一生懸命」の大切さをつなぎ、「一生懸命」な子どもたちを応援していきたいと考えます。